

コミュニティ・スクールだより

No3

地域学校協働活動の様子

地域の住民や団体の皆様の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えていただいております。どの取組も、地域との“つながり・きずな”が実感できるものです。その一部を紹介いたします。

もし不審者が校内に侵入してきたら（避難訓練）

『三城先生 三城先生 至急1番の「学びの小径」にお越しください』

6月初旬、児童の不審者から身を守る意識を高めること、児童の安全確保のために教職員の対応の仕方を共通理解することをねらいとして、本年度第一回目の避難訓練（不審者対応訓練）を全児童と全教職員参加で行いました。その後不審者確保の放送が入り、子供たちは先生の指示のもと体育館に移動しました。

体育館では講師としてお招きした元警察官のスクールガードリーダーさんから、避難訓練の講評や日頃の心構え、不審者に遭遇した時の対応などのお話を伺いました。「基本になるのは『いかのおすし』です。この標語を覚えその意味をしっかりと理解しておく、実際に危険な場面に遭遇した時正しい行動がとれるようになります。」と話されました。

学校敷地内への侵入に限らず、校区内またその周辺でも子供たちへの声掛け事案が発生することがあります。一人一人が「もしも…」に備えておくことが大切と再認識させてくれる時間でした。



「農業」や「食」への関心を深めて（田植え体験）



「米」という漢字は「八十八」という数字からできているという説があります。「お米を収穫するまでには、88の苦労と手間がかかるから」が由来のようです。最近では機械化が進んだおかげで、昔に比べるとずいぶん作業も省力化され楽になりました。

今回、三ツ城自治協議会の皆様のご協力ご指導の下、47組136名の1年生から6年生までの子供たちとその保護者が二組に分かれて、田植え体験をしました。ぬかるむ水田に足を取られながらも、横一列に並んで一苗一苗上手に植えていきました。初めのうちは戸惑う子もいましたが、終わるころには足の裏から伝わってくる、場所によっては生暖かく場所によっては冷たい、ヌル〜トロ〜とした泥の感触を楽しんでいるようでした。

田植え体験は、「食」への興味関心を高め、お米へのありがたみや大切さを教えてくれます。また親子の共同作業ということで、相互のコミュニケーションにも繋がりました。主催してくださった三ツ城自治協議会の皆様、誠にありがとうございました。子供たちも貴重な体験ができました。稲刈りは10月中旬の予定とお聞きしています。